

【総領事館からのお知らせ:安全対策情報:9月】

平成24年9月6日(総12第24号)
在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

(1)8月中旬以降、中部ジャワ州ソロで警察署に対する銃撃等の事件が連続して発生していることに関連して、8月31日、国家警察対テロ特殊部隊とテロ容疑者グループとの間で銃撃戦となり、容疑者2名が射殺、特殊部隊1名も被弾して死亡しました。同グループは数名が逃走中ですが、同容疑者らは、フィリピンで軍事訓練を受け、高度な射撃技術を有しているほか、武器を同国から密輸していた由です。

(2)上記テロ容疑者グループの動きには、テロ掃討作戦を行ってきた警察への報復の意図がある点が指摘されていますが、国家テロ対策庁長官は、ジャカルタとソロ、バリにおいて、テロリスト・グループによる同時多発爆弾テロが計画されていた旨言及しました。これを受けて、バリ州警察では、警戒を高めている由です。

(3)。バリ島においては、本年3月に警察とテロリストとの銃撃戦が発生した経緯もありますので、テロリストの動向に関する今後の報道等には御留意の上、爆弾テロの標的となるような大勢の人が集まる場所では、不審な動きをしている人や車がないかなど周囲の状況に最大限の注意を払って安全対策を講じるようにして下さい。

2 一般情勢

(1)一般犯罪

8月のレバラン期間中、デンパサール市の邦人宅等各地で泥棒や強盗等の犯罪が発生しました。住居に警備員や警備カメラなどの防犯対策を事前に施すことが、犯罪の標的となることを未然に防ぐ効果があります。

(2)狂犬病

バリ州では全域の市・県で狂犬病の犠牲者が見られますが、州畜産局によれば、8月中旬に12匹の狂犬病に感染されている犬がバンリ県、ジュンブラナ県、ブレレン県、バドウン県、ギアニャール県で確認されている由です。

(3)アグン山の山火事

8月31日から、バリ島のアグン山の北斜面から始まり、東斜面、南斜面に山火事が発生しています。鎮火に向かっているとの情報ですが、本年の乾期は12月頃まで続くとの報道もありますので、アグン山の麓に近づく際には、山火事の最新情報に御注意下さい。

(4)地震

9月4日未明、バリ島から南東300キロ付近の海域(震源の深さ10キロ)でマグニチュード6.5の地震が発生し、その後5日朝までにマグニチュード5前後の余震が30回以上発生しています。今後の地震の動向には念のため御注意下さい。

地震・津波に関する速報は以下のサイトで確認できます。

- ・インドネシア気象庁(BMKG) : http://www.bmkg.go.id/BMKG_Pusat/Depan.bmkg
- ・太平洋津波警報センター(PTWC) : <http://ptwc.weather.gov/>
- ・アメリカ地質調査所(USGS) : <http://www.usgs.gov/>

3 邦人事故・事件関連

(1)ダイビングの事故

8月26日、バリ島南東沖のヌサ・ペニダ島付近のダイビング・スポットであるクリスタル・ベイで、ダイビング中の9人のグループが強い下向きの水流に巻き込まれ、そのうち邦人女性観光

客1名が行方不明となり、翌27日、遺体で発見されました。

また、同じクリスタル・ベイで、28日、ダイビングをしていたデンマーク人1名が遺体で発見されました。上記の2名の被害者は、いずれもダイビングのベテランであった由です。

同海域は、時折強い海流や下降水流が発生する場合があります。同海域でダイビングをされる方は、経験豊富なインストラクターの指示に従い、危険なスポットを避けるなど安全には十分注意下さい。

(2) 空港到着ビザ(ジャカルタ)

スカルノーハッタ国際空港到着時に入管職員から「手数料50ドル払えば到着ビザを延長できる」と持ちかけられて領収書をもらわずに50ドル支払ったものの、実際は延長されておらずに不法滞在となり、罰金を払わされたという事案がありました。入管職員からそのような話を持ちかけられても、空港入国審査時に延長手続きは出来ませんので、御注意下さい。お金の支払いを求められることがあれば、必ず領収書を要求することが望ましいと思われます。

(3) 邦人による飲酒運転

当地において邦人が飲酒運転を行っているとの苦情が寄せられています。インドネシアにおいても飲酒運転は法律で禁じられており、禁固刑を含む処罰が科されます。ちょっとした気の緩みで飲酒運転を行い、事故を起こしてしまえば、当該人が厳しく非難されるだけでなく、当地の邦人全体のイメージ低下にもつながります。当地においても日本と同様、絶対に飲酒運転はしないで下さい。

4 緊急事態発生時への対処

大地震や津波、鳥インフルエンザのパンデミックなど、緊急事態はいつやってくるかわかりません。緊急事態発生の際には、電話の不通、電気、水道等のライフラインの切断、生活物資の入手困難等が発生します。これらの緊急事態へ対処するため、最低2週間程度の食糧や水、燃料等の備蓄を日頃から心がけることを是非お勧めします。

また、緊急事態発生時に、総領事館から緊急連絡をしたり、安否確認を行うためにも、3カ月以上当地に在留される方は、総領事館へ在留届を必ず行っていただきますようお願いいたします。(以下の総領事館のホームページからも在留届を行うことができます。

www.denpasar.id.emb-japan.go.jp/japan/02_01zairyu_jp.html)

5 熱帯地域での健康上の留意

涼しい日本からインドネシアに来ると、蒸し暑い気候に適應するために身体に様々な変化が生じ、これを「暑熱順化」と言います(英語では heat acclimatization)。慣れると汗をかかなくなると考える方が多いですが、実際には汗をかきになります。具体的には、汗をかき出すタイミングが早くなり、薄い汗を大量にかくようになります。これは気化熱(汗が蒸発するときに奪われる熱)で身体を冷やすためです。インドネシア人はあまり汗をかかないのは、高度の暑熱順化の賜物です。乳幼児期(5歳ごろまで)を暑熱環境で過ごすると汗腺の数が少なく、体内での熱の生産自体も少なくなっています。また、インドネシアに滞在することによって体重は数%増えます。我々は1時間に1~2リットルの汗をかくことが出来ますが、大量の発汗に備えて身体の中の水分量が増えます。中には Heat Edema といって、到着後しばらくの間手足や指が浮腫むこともあります。暑熱順化が進むにつれて1カ月もすれば元通りになります。暑熱環境では、血圧も脈拍数も少し上がります。体内で血液をどんどん循環させて、身体の奥の熱を皮膚まで効率良く運ぶために、心臓の働きが活発になるためです。その分心臓に負担が増すため、心臓の弱い方や年配の方は注意が必要です。

暑熱順化が完成するには、10日ほどかかります。しかし、単に暑熱環境で生活するだけでは、順化はなかなか進みません。運動選手の場合は、暑さの中で毎日1時間体を動かすことによ

て、暑熱順化が早く進みます。運動にあたっては、水分、塩分を十分に補給して下さい。

何年もインドネシアに住んでいる方の中には、暑熱順化がもう出来ていて大丈夫と考えられている方がいるかもしれませんが、日本に一時帰国した際など、身体を暑熱環境に置かないと数日から1週間で元の身体に戻ります。一時帰国からインドネシアに戻った際には、生活様式や業務環境にもよりますが、無理をせず、徐々に身体をならすことが大切です。

また、日本からの旅行者や出張者で、インドネシア到着後に体調を崩し、脳卒中や心臓発作を起こす方が毎年何名か出ています。その中には環境の変化が多少とも影響しているケースもあると考えられます。身体が高温多湿環境に慣れる前に炎天下などの暑い環境で長時間の活動することは身体にとって大きな負担となります。暑熱環境では、暑熱順化に時間がかかることを理解して生活することをお勧めします。

以上